

新型コロナウイルスも新たな変異株、オミクロン株が出現しました。欧州で死者が出たと言われています。日本は3回目のワクチン接種が1月以降に始まると言われていますが？

私たちはマスク、丁寧な手洗いなどを続けましょう。裏面に後遺症について書かれた新聞記事を印刷します。

2022年1月定例会

2022年1月5日(水) 13:30~16:00

我孫子南近隣センター 8F調理室

いつもは会費制で、新年会を兼ねて行ないませんが、コロナの状況を考え、新年会は止めて定例会飲みにする事に決定しました。13時30分からです。どうぞお集まりください。

2022年2月定例会予告

2022年2月7日(月) 13:30~16:00

我孫子南近隣センター 8F調理室

あふれるプラスチックごみ

~最新情報と今後の対策~ 終了

DVD上映と高田秀重氏の講演

89名のご参加を得て、高田秀重先生のご講演を頂きました。概略を報告します。

高田先生は今年も11月18日に東京湾でマイクロプラスチックの調査をされ、東京湾の現状が如何にひどいから話を進められました。

1 プラスチックの海洋への流入とマイクロプラスチック

プラスチックは加工しやすいから大量に使われているが、捨てられたり、回収ボックスからあふれたりしているプラスチックごみが風で飛ばされ、河川を通して海へ流入している。

プラスチックのごみは軽いので、海の遠くま

で運ばれる。海岸に打ち上げられると、波の力と紫外線により劣化し、破片化、微細化が進み、マイクロプラスチックになる。マイクロプラスチックになれば回収はできない。だから海岸でできる限りごみ拾いをし、回収することが必要だ。

海に流れ出たマイクロプラスチックを魚が食べる。

プラスチックは石油から作る。魚を食べれば、私たちの体に石油が入ることになる。それだけでなく、プラスチックを作るのには添加剤が使われる。その安全性の問題も疑問が多い。

容器包装だけでなく、化学繊維を洗濯すると、一人1日10万本の微繊維が流れ出る。下水処理で98%は取り除かれるが、残り2%の2,000本のMPは川や海に放出される。私たちの身近にあるメラミン製スポンジ。ポリウレタンスポンジ、アクリル毛糸たわし。こうしてマイクロプラスチックは1950年代に比べて2000年代には10倍以上に。

2 海洋生物によるプラスチックの摂食、取込

東京湾のスズキ、イワシから1mmくらいのマイクロプラスチックが検出。そして、昨年イタリアでナノプラスチックがヒトの胎盤から検出されたという報告がある。

- 800種以上の海洋生物(海鳥、魚、貝、ウミガメ、クジラなど)がプラスチックを摂食している。
- タイのクジラの胃の中から80枚のレジ袋
- コスタリカのウミガメの鼻に刺さったストロー
- 栄養失調で死亡したと見られる海鳥(プラスチックで、お腹が一杯。それ以上食べられず、栄養失調に)

3 プラスチックに含まれる有害化学物質と生物・ヒトへの影響

プラスチックの生産量の7%が添加剤。これを常時、体に入れることになると、健康被害も心配。

環境ホルモン（外因性内分泌攪乱物質）の人体への影響が様々指摘されている。ペットボトルの本体以外にもキャップから環境ホルモンが検出されている。添加剤の影響。

4 プラスチック汚染対策：環境と健康を守るために

上記の通り、プラスチックには多くの問題がある。気が付いたところから無くしていこう。

- ・ペットボトルは買わない・使わない。マイボトルを常に持参。
- ・レジ袋はもらわない。常にマイバッグを持参。
- ・家で食事を作り、プラの弁当箱等に入っているものは買わない。
- ・菓子類も個包装のものはなるべく買わない。
- ・知った人が友人に語りかけ、協力してもらおう。
- ・団体として、行政や業者に働きかけ、プラスチックの使用を少なくしてもらおう。適正処理の方式にしろ。

1時間半に渡って、高田先生は熱心に話してくださいました。私たちは行政と話し合ったりして、リサイクルのシステムは作ってききましたが、プラスチック問題で、業者と話し合うことはありませんでした。大きな宿題を頂きました。

高田先生の本の紹介

「プラスチックモンスターをやっつけよう！ きみが地球のためにできること」

高田秀重／監修 クリハラタカシ／絵

クレヨンハウス編集部／編 1,600円

「いしね〜 さよならプラスチック生活」

クレヨンハウス発行 800円

2冊の購入希望者を1月の定例会で募集します。申し込みは加藤さん（7105-5292）

水俣の甘夏みかん 共同購入

水俣病患者家庭果樹同志会の甘夏です。

1箱 10kg 2,800円

申込 中村さん82-7935へ。

高齢社会への対応を探る会主催

映画「結びの島」上映会

日時 2022年1月29日（土）14:00~16:00

会場 けやきプラザ2階 ふれあいホール

先着 200人

内容紹介 （2020年制作 108分）

企画にあたって「この国の近未来を体現する島」全国でもその人口規模に比して飛び抜けた高齢化率となっている周防大島町。平成27年の国勢調査では人口17,000人余りで高齢化率は51.9%となっている。（※2020年8月1日現在人口約15,500人、高齢化率約54%）

この島で無床の診療所と複合型コミュニティ介護施設を営む医師、岡原仁志さん（60歳）は診療所や施設のスタッフと医療・介護活動を通じて、豊かな老後を過ごすための医療や介護はどうあるべきかを問い続けています。

平成30年周防大島の年間検死数はおよそ50件（島内全死亡者の約10%）にのぼります。在宅や農作業中に死亡した島民がすぐには発見されず、結果変死として処理されるためです。この数字は決して対岸の火事ではなく、このまま有効な施策が打たれない限り、近い将来都市部でも起こりうることです。否、もう既に起こっている事かも知れません。

まずは、医療や介護者だけではなく一般の生活者が自分事と感ずる事が重要であり、「豊かな生活」や「豊かな死」を望む思いが必要であると考えます。

「高齢者が安心して暮らすことができる社会とは？」映画では高齢化に伴うさまざまな問題を提起しつつも、安易に警鐘をならすだけではなく、その解決のために日々活動している岡原さんたちの姿から、高齢者が安心して暮らしていける社会のためのヒントを得る事ができる作りをめざします。（溝淵雅幸）

お元気で良いお正月をお迎えください！！